

ふみあと

花を見に行こう！

山々の雪が解けて新緑が眩しく花が咲き乱れる季節になった。メディアから届く戦争や病気になる日々だが、心身の健康を促進し、免疫力を高めるためにも、山へ花を見に行きたいと思う。

コロナ禍のため、原水爆禁止国民平和大行進は労山旗のラリーが2020年からできていない。しかし今年ぐらい核兵器廃絶の声を上げなければならぬ年は無いだらう。他国に侵攻したり、ミサイルの発射を続けたり、抑止力のために核兵器が必要だと唱えたりする指導者がいて、人類を滅ぼす武器を作り巨額な利益を上げる企業が存在している。

この世界で私たちの声は小さく無力に思えるが、何もしない

わけにはいかない。旗がなくても、大勢でなくても反戦平和をアピールしよう。

こんな荒んだ時だからこそ、見た人の気持ちを和らげるために、山へ行って素敵な花の写真を撮って、SNSでどんどん発信すれば良いのではないか。

山岳四団体（日本山岳ガイド協会、日本山岳会、日本山岳スポーツクライミング協会、労山）は、共同で「ロシアによるウクライナ軍事侵攻に反対する声明」を出すことができた。安全対策ネットワークを整備するために、日本山岳ガイド協会が行っている「コンパス登山届システム」利用について、四団体での検討部会も始まった。

個人より団体（会・クラブ）、団体が集まった連盟や協会は

きくなればなるほど社会的な影響力が増してくる。平和な社会の実現だけでなく、遭難対策や自然保護などの問題にも、組織が大きくなれば改善への可能性が広がるだろう。

楽しく山に登り続け豊かな人生を送るためには、平和な社会で地球環境を守り続けなければならぬ。登山と政治問題は関係ないなどとは言っていられない。自分たちが選んだ政治家が戦争をするかしないかを決め、環境より経済活動を優先するのかが決めることになる。

より多くの人が、平和や自然保護を訴えて歩き続けていけば、きつと明るい未来が見えてくる。

北の大地にも花が咲き、戦火が収まることを祈りつつ。

(川嶋高志／日本勤労者山岳連盟 理事長)